

## 江戸の基層シンポジウム

# 「古代・中世の府中から武蔵国を探る」

日時:2019年3月23日(土) 13:30~17:30

会場:法政大学 市ヶ谷キャンパス

富士見ゲート校舎 2階 G201

### <プログラム>

13:00 受付開始

13:30 開会挨拶 横山泰子(法政大学江戸東京研究センター センター長)

13:35 趣旨説明 神谷 博(法政大学江戸東京研究センター 客員研究員)

13:45 【講演 1】江口 桂 /府中市ふるさと文化財課 課長  
「古代武蔵国府とその周辺」

14:45 質疑

15:00 【講演 2】小野一之 /府中市郷土の森博物館 館長  
「江戸の基層としての中世武蔵府中～祭礼・古戦場・歌枕～」

16:00 質疑

16:15 休憩

16:30 【パネルディスカッション】「武蔵国の古代・中世から江戸の基層を探る」

パネリスト: 江口 桂(府中市ふるさと文化財課 課長)

小野一之(府中市郷土の森博物館 館長)

陣内秀信(法政大学江戸東京研究センター 特任教授)

根崎光男(法政大学人間環境学部 教授)

神谷 博(法政大学江戸東京研究センター 客員研究員)

コーディネーター: 高村雅彦(法政大学デザイン工学部建築学科 教授)

17:30 閉会挨拶 福井恒明(法政大学エコ地域デザイン研究センター センター長)

東京の基盤となっている江戸の水都としての構造をより深く読み解く際に、その前史としての古代から中世のつながりを踏まえておく必要がある。

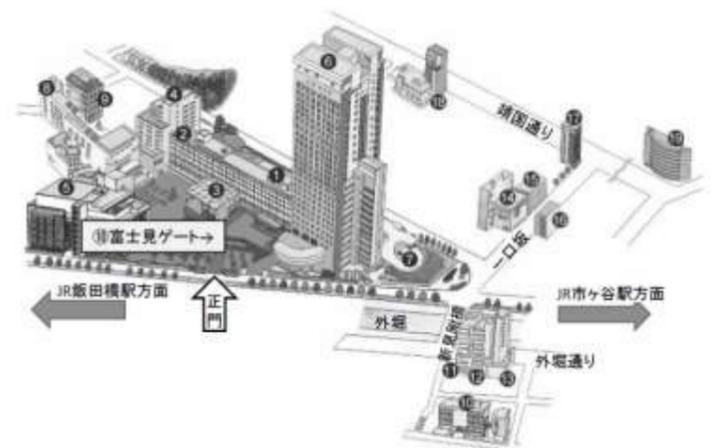
江戸は武蔵国の古層の上に構築されたが、かつての中心は国府のある府中であった。古代の条里制や五畿七道の枠組みは武蔵国においても地域基盤となり、その後の地域構造を規定した。

平安末期の荘園開発は武士の台頭をもたらし、これが中世の動乱につながり、中世末期までに武蔵武士も全国へと展開していった。

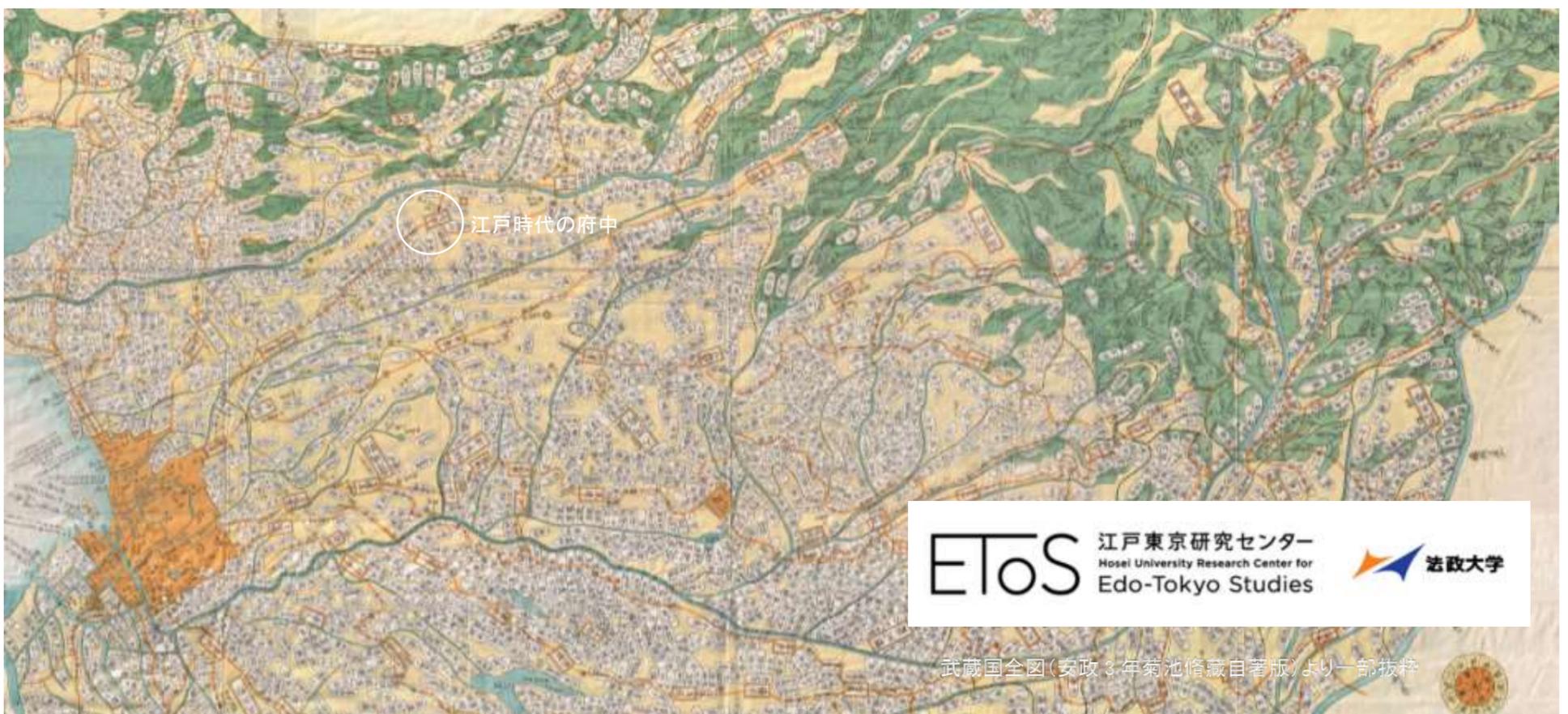
その間、武蔵国の中心は府中であり続けたが、徳川家康が江戸に幕府を開くと、次第に江戸は日本の政治・文化の中心となっていった。

本シンポジウムの議論をとらえて、現代の東京にも引き継がれる武蔵国の地歴を探る。

法政大学市ヶ谷キャンパス案内図



JR 総武線・地下鉄各線 市ヶ谷駅 又は 飯田橋駅より徒歩 10分



EToS 江戸東京研究センター  
Hosei University Research Center for  
Edo-Tokyo Studies

法政大学

武蔵国全図(安政3年菊池脩藏自著版)より一部抜粋

主催:法政大学江戸東京研究センター+法政大学エコ地域デザイン研究センター



◆Web 事前申込み先: <https://www.event-u.jp/fm/10913>

◆参加費 無料

申込はこちらから

【お問合せ】

法政大学 江戸東京研究センター・エコ地域デザイン研究センター

edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp 03-5228-1267